

// 卷 頭 言 //

社会福祉法人日本ライトハウス
理事長 橋本 照夫

このたび『視覚リハビリテーション』は、第80号の発刊となりました。当初は『視覚障害研究』というタイトルで、1973年12月に第1号を発刊し、視覚障害の研究発表誌として広く社会の方々や関係者に公開してまいりました。今日まで、滞ることなく継続して刊行することが出来たのは、毎年助成をいただいています一般財団法人安全交通試験研究センター様のおかげと心から感謝しております。

現在、日本の福祉施策は「障害者総合支援法」のもとで進められ、障害者の方達は「お住まいの地域、の社会資源を活用しながら生活しています。そのため、日本ライトハウスのような入所施設には、地方から利用される方は現在はおられない状況になっています。加えて、利用される方達は高齢化・重複化しておられ、「自立」の考え方・方法も大きく変わってきました。しかし中には、「ヘルパーさんを利用せずに、行きたい時に、行きたい所へ行きたい」「職業訓練を受けて、企業で働きたい」など、主体的に社会参加を望まれる方もおられます。自分の可能性を求めて自立を目指しておられる方々を、一人でも多く私たちの施設をご利用いただくよう取り組んでいるところです。

さて、去る11月10日～13日まで、韓国・ソウル市にあるシロアム視覚障害者福祉会を訪問してきました。視覚以外の障害を持った学生達を支援する「サリバン学習支援センター」の開館式に、姉妹施設を代表して祝辞を述べてまいりました。その際に、シロアム視覚障害者福祉館とシロアム眼科病院へ訪問する機会を得ました。この「サリバン学習支援センター」は、日本と同じように障害のある方が重複化しており、その方達に対応する支援センターとして、ソウル市の盲学校近くに設置されました。重複障害児の親子と健常者親子との教室や、盲学校授業終了後の学生に対し、自立に向けてのサポートや身体介護のサポートをするなど、ソウル市の委託事業として実施しています。手作りの触る絵本・時計・地図などを整備し、ペグボードを利用しての感覚訓練や三次元

切削装置で鳥や動物を製作して概念形成に役立てていました。3Dを実際に活用しているのには驚きでした。

また本体のシロアム視覚障害者福祉館では、視覚障害者の職域拡大に向けて新しい取り組みをしています。10年前に訪問した時には、「テレマーケティング事業」に力を入れておられ、福祉館でテレマーケッターを養成して事業を実施していました。しかし今回訪問した時には、テレマーケティング業者への就職斡旋は、景気の影響を受けるとともに離職率も高いため廃止していました。変わったの新事業は、航空機客席に設置してあるヘッドホンのクリーニング事業です。大韓民国の航空会社の特例子会社として、福祉館内の作業室でヘッドホンをつり下げるコンベアーを設置し、10名程の視覚障害者の方達がヘッドホンを分解し、クリーニング後に組み立て包装する流れ作業で、1日5000組を搬出していました。また福祉館の一階では、点字図書やパソコンを利用しながらコーヒーを飲めるブック・カフェを営業していました。シロアム眼科病院の待合室や、大学構内など4カ所にコーヒーショップを営業し、カウンター内で2名の視覚に障害のある女性が作り、健常者の方がウェイトレスとして対応していました。業態は、あのスターバックスと変わらないイメージでコーヒーの味もとても美味しく、どこのコーヒーショップも流行っているとのことでした。そして、コーヒーショップでは、視覚障害者の方達が作った見た目もきれいな美味しいパンの販売をしており、昼食時にはコーヒーとパンで済まされる方も多とのことでした。

現在、新たに取り組んでいる事業は、LED照明の組立て作業を始められました。視覚障害者の雇用創出に向けて積極的に進めておられます。私たちの創業者岩橋武夫が、戦時中に失明軍人の方達の職業訓練としてシャープの創業者・早川徳次氏の協力を得て、無線機の組立作業を実施しました（早川分工場、のちの身障者のモデル工場として独立・早川特選金属工場）。そこで健常者と視覚障害者との作業能力を比較し、視覚障害者の職業訓練にプレスや組立て作業など、均一の寸法や均一の量など要求される作業については、視覚障害者の方が優れていることを実証しています。シロアム視覚障害者福祉会では、時流に合わせて視覚障害者に適した職業を開拓し成功させているのには少なからず衝

撃を覚え、私たちは職域開拓に向けての開発、また検証の段階での甘さを反省して帰国してまいりました。

日本ライトハウスは、視覚障害者の方達に支持され信頼される施設でなければ存在意義はないと思っています。障害者の一人一人のニーズに合ったサービスの提供に努めるとともに、各自のQOLが少しでも高められるように、現場で支援にあたるものは、日々鋭意工夫をして進めて頂けるよう願ってやみません。そのためにも、この『視覚リハビリテーション』誌上を通して、関係者相互の研究取り組み等の情報を共有するなど、有効的な活用を今後も続けていただけるようお願い申し上げます。

《インフォメーション グッズ1》

アラビアの壺

3種類の音の鳴るツボを3個ずつ使い、記憶と音を頼りに遊ぶボードゲーム。3×3マスのボードの上に9個のツボを置き、1個を選んで振って音を鳴らすか、たて横隣り合ったツボを入れかえるかを順番に行い、たて横ななめのいずれかの一行に同じ音の壺を並べると勝ち。

商品内容:壺×10個(音の鳴る壺9個、音の鳴らない壺1個)、絨毯ボード、説明書、音声説明CD-ROM、専用URLへの案内カード

対象年齢:6才~大人

遊戯人数:2~6人

遊戯時間:3~10分

価格:6,800円(税込)

問い合わせ先:アラビアの壺 <http://arabianotubo.com/>

日本ライトハウス情報文化センターサービスフロア

TEL 06-6441-0039